

和歌山インターハイ 東京都選手団の活躍

文責 総監督 小林 隆雄

今年のインターハイは7月29日から8月2日までの5日間、「近畿総体」として今年の国体が行われる和歌山県紀三井寺競技場にて開催された。会場は海に近いため湿度も高く、更には連日「35度」以上の猛暑に見舞われ、熱中症で搬送される選手・観客・補助員が多くあったと報告された。また、会場のスタンドも出入り口が少なく「導線」も不便で、通路も狭く危険を感じるほどであった。

そのような中、史上最多の選手団とした東京都の選手たちはコンディションの維持に苦労しながらも健闘し、素晴らしい競技力を発揮して、これまでにない成績を上げたといえよう。その陰には、橋口・千野両先生が東京都テントの設営をはじめ、マネージメントに奔走していただいたおかげとこの場を借りて感謝申し上げます。

今年の東京都としての結果は、6種目に優勝したのをはじめ、男子述べ14種目女子述べ9種目の23種目もの入賞者を出すことができた。また、東京都高校新記録も2種目樹立された（女子100m・女子4×100m R）。2012年度の新潟インターハイ・2013年度の大分インターハイでも20種目に入賞し、昨年度の山梨インターハイでは21種目に入賞し、「東京都は強い！」と強く感じたが、今年は更にそれを上回る大健闘であった。それは、都道府県対抗得点でも明らかであり、47都道府県中、男子は第1位、女子は第3位、男女総合では第2位としたのである。（第1位は大阪府であった）

学校対抗も男子は東京高校が2位となり、2011年度の総合優勝した年から5年連続で総合入賞を果たした。また、トラック優勝を勝ち取った。城西大城西高校もサニブラウン選手の活躍で総合7位とした。女子は、東京高校が距離陣の活躍で昨年に続いて総合3位とした。

特に、大会2日目に行われた男女の100mでは昨年に引き続いて「大会史上初」の快挙が達成された。女子100mでエドバー イヨバ（東京高校3）が他を大きく引き離し、東京都高校新記録の11秒72で2連覇を果たすと、その直後の男子100m決勝では大嶋 健太（東京高校3）がスタートから素晴らしい飛び出しを見せ、サニブラウン・Aハキーム（城西大城西高校2）との激戦をわずか100分の1秒差の10秒29で制し、エドバー選手と2年連続アベック優勝を果たした。昨年度の同一校での100mアベック優勝はインターハイ史上初めてであったが、今年、更なる快挙に会場は大いに盛り上がった。

大会3日目には、4×100mリレーの決勝が行われ、東京高校がこれまたインターハイ史上初のアベック優勝という偉業を成し遂げた。男女とも1走からリードを奪う飛び出しで有利にレースを進めた上、100mチャンピオンのエースを共にアンカーに据えていたこともあり「危なげない」優勝であった。特に女子は前日の準決勝で45秒49の東京都高校新記録をマークした。また、男子5000m競歩では小野川 稔（東京実業高校3）が中盤から他を引き離し「ユースオリンピック・チャンピオン」としての実力を見せつけた。念願の「インターハイチャンピオン」となり、名実ともに「日本一」となった。

大会4日目の男子200mではサニブラウン・Aハキームが20秒82という好記録で優勝を果たし「世界ユースチャンピオン」の貫録を示した。遠征の疲れもあったと思うが出場全種目3レースに健闘した。昨年2位としたとき、その潜在能力の高さから「近い将来「日の丸」を付け疾走する姿が容易に想像できた。」とコメントしたが、こんなにもすぐに実現させるあたり「驚き」であるが、この夏北京で行われた世界陸上でも高校生を代表して堂々と世界と戦う姿に感銘を受けた。また、この200mでは大嶋 健太が5位としたが、高校1年生以来3年連続で2種目に入賞を果たした。これも、インターハイ史上初のことである。

優勝者以外でも健闘した選手が多く、中でも男子1500mに出場した齋藤 雅英（早稲田実業3）は得意のラストスパートで抜け出し、先頭と争ったが一步及ばず2位とした。男子110mHでは平松 ハブデンバ（都芦花3）が東京都高校記録に迫る14秒19という好記録で3位としました。平松選手の潜在能力は非常に高く近い将来は日本を代表する選手になることを予感させる決勝のレースであった。また、女子七種競技では白梅学園の2選手が伝統を守った。1年生の大野 優衣は最初のハードルで自己新をマークし勢いに乗ると最後まで入

賞争いをし8位入賞を果たした。3年生の高橋 このかは今シーズン春先の故障から都大会・南関東大会と苦しみながらギリギリの戦いを勝ち抜き掴んだ和歌山インターハイであったが、「本来の調子」とはいかなかったものの力の限りを尽くし、最後の800mまで全力を出し切った。その結果3位に僅か1点及ばず4位としたが、その競技する姿には心から拍手を送りたい。「全国選抜頑張ろう」

全体的に東京都勢は短距離種目を中心にトラック種目に活躍が目立った。逆にいえばフィールド陣は本来の力を発揮できずに終わった選手が多かったと反省できます。その中で、男子走幅跳で4位に入賞した橋岡 優輝（八王子2）と女子砲丸投で3位とした坂本 早映（三田国際3）は自己新記録をマークしての入賞であった。共に素晴らしい集中力からの見事なパフォーマンスでありました。

今年の和歌山インターハイには、東京都史上最多の選手数での出場でしたが、来年度は岡山県での「中国総体」であります。地元・東京都での南関東大会を勝ち抜き、一人でも多くの選手が出場できるよう選手の皆さんの健闘を強化委員会もサポートしていきたいと感じ帰京した次第である。また、今大会出場者の中から「東京オリンピック出場」へ夢を馳せることが出来ると確信した和歌山インターハイであった。

和歌山インターハイの足跡

東京都高校新記録

女子1000m 11秒72（-1.2m）決勝 エドバー イヨバ（東京3）
女子4×100mR 45秒49 準決勝 東京高校
斉田 果歩（2）・福田 真衣（2）・上村 希実（3）・エドバー イヨバ（3）

優勝者

女子1000m 11秒72（-1.2） エドバー イヨバ（東京3）東京都高校新記録
男子1000m 10秒29（-0.8） 大嶋 健太（東京3）
男子2000m 20秒82（-1.5） サニブラウン・アブレル ハキーム（城西大城西2）
男子5000m競歩 21分22秒29 小野川 稔（東京実業3）
男子4×100mR 40秒20 臼田・日高・井上・大嶋（東京） 準決勝40秒17
女子4×100mR 45秒55 斉田・福田・上村・エドバー（東京）準決勝45秒49東京都高校新記録

総合

男子総合3位 東京高校 24点 トラック優勝
男子総合7位 城西大城西高校 18点
女子総合3位 東京高校 25点

都道府県対抗

男子1位 78点
女子3位 42点
男女総合2位 120点（昨年度108点） 男女総合1位大阪府

日・中・韓ジュニア交流大会

8月24日25日の両日、韓国・済州島で行われる同大会に、東京都から下記の2名が出場します。

男子1000m 大嶋 健太（東京3） 25日 1位 4分00秒38
27日 1位 3分51秒16
女子1000m エドバー イヨバ（東京3） 25日 1位 11秒90（+2.6）
27日 2位 12秒03（+0.1）

また、9月11日～15日までフランスで行われるデカネーション大会に

男子1000m サニブラウン Aハキーム（城西大城西2）
女子1000m エドバー イヨバ（東京3）が日本代表として出場が決定しました。